

- インターネット上で商品やサービスの売買を行うeコマースは、企業と消費者間、企業間、消費者間の取引に使われています。
- eコマースは、消費者が実物を確認できないなどといったデメリットがあるものの、いつでも、どこでも、世界中の商品やサービスを購入できるといったメリットがあります。
- 店舗側にも、設備投資費用が抑えられ、ターゲットを絞った商品展開やブランディングを行うことにより、売上げが見込めるといったメリットがあります。

## 世界の小売eコマース市場の推移

- eコマースは、モバイル(スマートフォンやノート型パソコン)の普及もあり、2027年に世界の小売市場全体の1/4弱を占めると予測されています。
- 2023年取引額上位国は、1位米国、2位中国、3位英国で、2027年までの年平均成長率は、順に約10%、約11%、約7%となっています。

2017年~2027年(2024年以降は予測)

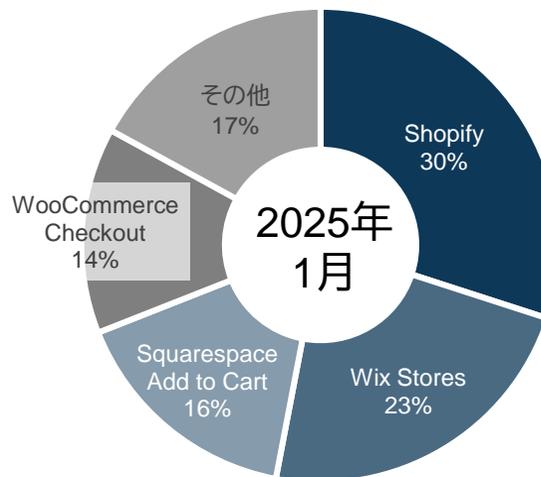


出所: Statista Market Insights, eMarketer

※上記は過去のものおよび予測であり、将来を約束するものではありません。

## 米国で利用されているeコマースサイト構築ツールのシェア

- eコマースサイトを構築するには、消費者が特定の製品を探すことができる検索機能や注文を管理する買い物かご機能、決済機能などを搭載しなければなりません。
- 従来はプログラミングなど専門知識が必要でしたが、近年は、eコマースサイトの構築ツールを利用することで、簡単に環境構築ができるようになりました。
- ここでは、取引額が多い米国を紹介します。



出所: BuiltWith

※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

### Shopify (開発はShopify(カナダ))

- 個人から企業向けまで、幅広いビジネスのeコマースサイト構築に対応しており、世界175カ国で利用されています。
- 運営に必要な機能が標準装備されており、多言語対応の機能もあります。また、世界中にパートナーがいることから、随時最先端の機能が開発され、リリースされています。

### Wix Stores(開発はWix(イスラエル))

- ホームページ作成ツール“Wix”のeコマースサイト版で、ドラッグ&ドロップで簡単に構築でき、汎用ホームページの中にオンラインショップ機能を持たせることもできます。
- 写真やスライドショーなどのコンテンツが豊富で、文字やアニメーションなど、細かな設定ができます。

### Squarespace Add to Cart (開発はSquarespace(米国))

- クラウド型WEBサイト構築プラットフォームで、eコマースサイトへも対応し、ドラッグ&ドロップで簡単に構築できます。
- サーバー容量を無制限で使用できるほか、デザイン性の高いテンプレートが用意されています。また、完全にカスタマイズすることが可能で、何度でも編集できます。

※公開情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。情報の正確性・完全性について当社が保証するものではありません。

ページ記載の銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。